

## 第2回南高教養アップ講座

講師 愛媛大学農学部 山内 聡 教授 羽藤 堅治 教授 伊藤 和貴 教授

演題 「愛媛大学農学部での先端研究」

【要旨】 愛媛大学農学部の3学科で行われているそれぞれの先端研究について「生命と食品」「スマート農業と植物工場」「森林バイオマスの利用」をテーマにお話していただきます。

### 【生徒の感想】

○今日の教養アップ講座を通して、自分の進路について改めて考えるきっかけになりました。私は、愛媛大学農学部の食料生産学科に進みたいと考えていて、どんな研究ができるのか気になっていました。今日説明してもらって、自分のやりたい内容に近かったので絶対に行きたいと思いました。共通テストまでの残り約2か月間のモチベーションを上げるきっかけにもなり、全力で頑張ろうと改めて決心しました。農学部がこれからの生活の中で重要になってくると聞いたので、社会に貢献できる人になりたいなと思いました。

○現在、僕が志望している学部は工学部ですが、農学という学問の中で化学を扱っている先生方のお話を聞くことができる貴重な機会だと思い、今日の講座に参加しました。農学部の化学・物理・生物・データサイエンスなど、多くの学問を複合的に扱うというお話を聞いて、最後までワクワクしていました。特に、伊藤教授の、木は溶かせる、紙にできる、発泡スチロールにできるというお話には驚きました。特に「木を溶かす」が自分の中の当たり前を壊し、農学部にも興味を持ちました。今日はありがとうございました。

○農学部は理科科目が全て関わっていることを初めて知りました。非常に広範囲な領域の中で、様々なことを研究することはとても楽しそうでした。SDG's にいろいろな形で関わっていることを知り、私も SDG's のために何かしていきたいと思っているので、興味深くお話を聞くことができました。森林の大切さを小学生の頃から学んで、森林を守っていきたく強く思っています。愛媛の自然の豊かさをこれからも守っていきたく、環境問題を解決していくためにどのようなことを自分自身ができるかを学んでいきたいと思いました。

○今私たちが学習している物理・化学・生物が集まったものが農学部であるということを知ることができました。身の回りの自然を利用して日常生活に活用している例や、環境問題への取組などたくさん研究があり、農学部にとっても興味が湧きました。今やっている勉強が研究につながり、それが社会のためになると考えると、農学部での研究は今の知識もつながっているのだと思いました。生物にある成分を用いて人間に与える影響を学ぶことで、化粧品などの道具にも利用できると思うので、そういったものの研究をしたいと思いました。

○農学部が網羅している分野がとても広く驚きました。また、化学は化学、生物は生物と分けて考えていましたが、つながっていることを知りこれからの勉強にそれを生かしていきたいなと思いました。広い視野で勉強を楽しんでいきたいです。また、最近よく言われている「SDG's」をどの先生もどれか一つは掲げていていいなと思ったので、私も

SDG's から自分が将来やりたいことの考えを広げていけたらいいなと思いました。3人の先生方が自分の好きな研究をしてとても生き生きしているように見えたので、私も日頃からいろいろなことに興味を持って、自分がワクワクするようなことを見つけていきたいです。

○3つの学科の先生方から興味深いお話を聞いて良かったです。今までは学科名からの先入観で行う研究を想像していましたが、それ以上に広い分野を担当していること、思っていたのとは少し違ったことも知ることができました。私は漠然と食品、環境や生活に関わることがしたいと考えていました。今日のお話で、どの学科においても興味を引くものがあり、これから深く考えて進路選択に生かしていきたいと思います。やりたいことや興味を1つに決められないのは良くないと思っていましたが、他分野・学部と関わりのある農学部はとても良い選択肢だと分かりました。

○農学部と言っても研究の幅が広く、物化生地の分野に分けることはできないのではないかと感じました。また、研究ではSDG'sに関連したものがほとんどで、地域の特性を活かしたものや持続可能な利用を目指したものなどとても魅力的な研究が多く、驚かされました。私が今まで持っていた農学部のイメージとは異なり、とても魅力的で大きな可能性を秘めた研究ができる学部だと感じました。特に、伊藤先生のお話に興味を持ちました。私も木の香りが好きなので、木の香りの効果が科学的に検証されていると聞き、驚きと嬉しさがありました。他の研究についての講義も聞いてみたいです。

○「人を含めて生物は化学工場である」今回の講師の山内先生は、生物分野と有機化学分野が密接に結びついていることを述べられた。また、羽藤先生は、経済発展と社会的課題の解決を両立する「Society5.0」を農業や食糧生産をはじめ、多岐にわたって次世代を担う分野に活用することによる利益、将来像を説明してくださった。伊藤先生は、バイオマス資源、特に木材バイオマス資源の利用と新しい可能性について紹介してくださった。私は将来、農業に携わる職業に従事したいと考えており、今回の教養アップ講座に参加した。生物や物理、地学、有機化学など非常に広い分野をカバーする農業の発展に貢献できるよう、学習をしっかりと行いたい。